

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間・最終 )

呉市立片山中学校区 校番 12 学校名 呉市立片山中学校

| 重点    | d 中期(3年間) 経営目標            | e 短期(1年間) 経営目標                           | l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)  | m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))  |
|-------|---------------------------|--|---|---|
| 確かな学び | 主体的に学ぶ生徒の育成               | <p>ⓐ</p> <p>思考力・判断力・表現力の伸長</p>           | <p>思考力・判断力・表現力の問題で、国語に関しては平均71.5点と高い結果を残すことができた。しかし社会では平均が50点未満となり、課題を残すこととなった。教科全体の平均点ではどの教科も60点前後の結果であったので思考力・判断力・表現力の伸長には課題を残すこととなった。</p> <p>「友だちの考え方や意見を知って学びが深まったと思います。」という質問では2学期末が1学期末より5.8%向上しており、意見交流でのタブレット活用が有効であったと分かる。しかし「自分の学力向上につながったと思います。」という質問は肯定的回答が87.7%で、質問項目の中で最も低い。生徒が学力向上を実感できるような工夫が必要である。</p> | <p>授業において、思考力・判断力・表現力につながる指導を1年間続けてきた。今後は、実力試験や生活場面にもつながる学習課題を増やし、繰り返し指導していく。また、各教科間の連携を考えた単元づくりにも取り組む。</p>     |
|       |                           | <p>ⓑ</p> <p>礼節・規範意識の向上と、他者との協働</p>       | <p>①自分から進んで②立ち止まって③地域の人に自分から挨拶するに3点において、各学年とも肯定的評価の割合がわずかに減少した。大きな声での返事や挨拶は控えるようにという指導はせざるを得ないが、心のもち方や「型」の部分については指導の改善の余地がある。</p>   | <p>各委員会でコロナ禍においても可能な取り組みのアイデアを募るなど、生徒の意見から活動をつくり活性化を図る。併せて、教科や道徳、学活と運動させるといった教員からのしかけの工夫をしていく。</p>              |
| 豊かな心  | 礼節を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成     | <p>ⓐ</p> <p>高い防災意識を身に付け、地域の課題に向き合う生徒</p> | <p>地域全体での防災訓練は本年度も実施出来なかったが、総合的な学習の時間を中心に防災教育のカリキュラムを再編成し、多くの実践ができた。(フィールドワーク、防災標語、防災カレンダー、公開研究会での発表など)</p> <p>「地域のボランティア活動や子ども会などの行事に参加しています」という質問に対しては、肯定的な回答が増えており、地域の活動に参加しようとする意欲の高まりが見られる。しかし、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる」という質問に対する肯定的回答が減少しており、地域や社会に対して、具体的な行動を考えるには至っていない。</p>                               | <p>小学生の時から継続した取組の成果として、防災に関する生徒の意識は高い。家庭との連携を進めるなど、さらなる改良をしていく。</p>   |
|       |                           | <p>ⓑ</p> <p>主体的な生活改善</p>                 | <p>睡眠についてはどの項目もあまり変化はないが、以前に比べると定着してきたようである。睡眠時間はどの学年も8時間以上が減り、7時間30分がほとんどであった。睡眠の質は確保できているように思える。起床・就寝時間は生徒の設定が厳しめのため達成率が低いと思われる。朝食は90%は摂れており、食事と排便のリズムはできていると思われる。</p>  | <p>睡眠講座の講話を再確認させる。さわやかカードについては、記入欄の設定を30分刻みにするなど改良する。</p> <p>排便のリズムができてきたので、来年度も今年と同じく栄養教諭や明治の食育担当の講話を申し込む。</p> |
| 健やかな体 | 心身ともに健康な生活を主体的に構築できる生徒の育成 | <p>ⓐ</p> <p>主体的な体力向上</p>                 | <p>今年度の全国的な傾向と同じく、目標に対して大きく下回る結果となった。要因としては、体育の授業や部活動に制限がかかり、運動時間の減少や運動内容が十分でなかったことがある。また、この状況下では目標数値の80%は高い設定であった。</p>   | <p>コロナの収束までは活動を工夫し、可能な範囲での運動量確保を検討する。また、家庭での自主的な体力づくりを進め、収束後は怪我防止を考えて段階的に体力づくりを進めていく。</p>                       |
|       |                           | <p>ⓑ</p> <p>生徒と向き合う時間の確保</p>             | <p>「生徒と向き合う時間が確保されている」と感じる教員の割合は88%で目標値に届かなかった。行事や部活動などに活動の制限が多かったためと思われる。コロナ禍における工夫をさらに考えながら、時間確保を目指す。</p>   | <p>今年度は毎週水曜日をB日程(10分繰り上げ、部活動なし)とし、会議、研修等の時間確保を具体化した。業務の効率化に向け、引き続き工夫していく。</p>                                   |
| 業務改善  | 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備 | <p>ⓐ</p> <p>長時間勤務の削減</p>                 | <p>部活動休日の設定、実践は確実に実行されている。しかし、1ヶ月の時間外勤務45時間以下の教職員の割合は82%であり目標は達成されていない。週1回の定時退校の徹底も不十分である。</p>  | <p>早めに行事予定を周知し、担当者を明確にして余裕をもった教育活動を心がけてきた。今後も企画委員会を活用して無理や無駄のない計画づくりをする。</p>                                    |